

山内一豊の母 法秀院の墓

戦国大名・山内一豊やまうちかずとよの母「法秀院」ほうしゅういん（生前の名は不詳）は、尾張国羽黒城主はぐろじょうしゅ（愛知県犬山市）梶原氏の娘（妹）、または二宮長門守の娘とされます。弘治三年（1557）7月、尾張国黒田城が信長軍の夜討ちで落城した際、夫盛豊を亡くすと次男一豊かずとよらを連れて落ち延び、以後、居を転々として、永禄末年（1569）頃に、4人の子どもを連れて宇賀野の長野家に身を寄せたと考えられています。法秀院は深く仏に帰依し、つつましく穏やかな性格で、村民とくに子どもたちから慕われていたと伝えられています。近在の子どもに裁縫や行儀見習いなどを教えていましたが、そのなかに隣村の飯から習いにくる千代ちよ（のちの一豊夫人・見性院）の姿がありました。「内助の功」で知られ「賢婦の鑑」かがみとされた千代は、飯に住まいした浅井家の家臣若宮喜助友興わかみや きすけともおきの娘とされます。

天正元年（1573）、一豊が近江国唐国（長浜市唐国町）を治め、同13年（1585）長浜城主となったときには、同地に赴いたこともありましたが、生活基盤は常に親しい知人が多い宇賀野におかれていたといわれています。晩年の天正13年11月29日夜に起きた大地震で孫の与弥姫よねひめ（6歳）を失うという悲しい出来事もあり、翌年7月17日、息子の大大名（土佐二〇万石）への出世姿を見ることなく、宇賀野で病没したといわれます。





嘉永七年(1854)11年竣工時の台石



明治の改修時に新設された石扉・石柵

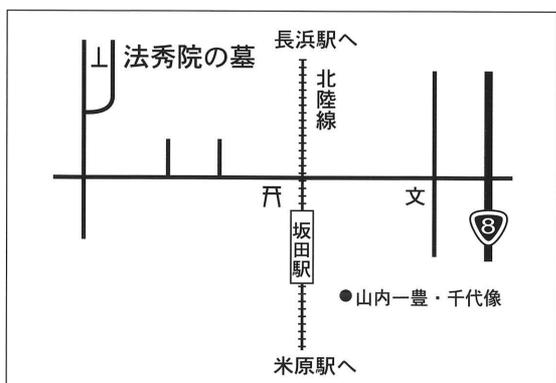


長野家(平成18年撮影)

法秀院没後200年以上たった寛政2年(1790)、土佐藩士馬詰権之助が、藩命を受けて法秀院の墓の探索に宇賀野村を訪ねてきました。長野家では馬詰を墓所へ案内したり、法秀院や一豊ゆかりの品を見せています。これらの縁で、長野家は土佐藩から永代五人扶持が給されることとなります。嘉永6年(1853)、長野家は法秀院の墓の改修工事に着手します。墓の四面に石垣を積み、その上に石柵を廻らせ、中央に石碑を建設する計画でした。七年に竣工しますが、土佐から送られてくるはずの石碑が大津波で埋没したため、台座のみが置かれました。明治26年の改修後、平成に入って法秀院墓の改修の機運が高まり、平成9年に現在の墓が完成しました。



若宮氏館跡



法秀院の墓

- 所在地 滋賀県米原市宇賀野
- アクセス JR北陸線坂田駅下車。徒歩約10分。

米原市教育委員会

滋賀県米原市長岡1050-1 TEL.0749-55-8020

平成23年度 埋蔵文化財活用事業